

町農協青年部 ジャガイモ50キロ 新冠小学校へプレゼント



10月1日、町農協青年部（山本将之部長）が育てたジャガイモ約50キロを新冠小学校に寄贈しました。同青年部は、町内の小学生を対象に春に種植え、秋に収穫する農作業体験を毎年実施していましたが、昨年と今年はコロナ禍のため、事業を中止したことから、同青年部が種を植えてこのほど収穫したジャガイモを児童たちに届けました。

M9.0の大地震・大津波を想定 新冠町防災避難訓練を実施



10月3日、市街地・節婦・大狩部地区を対象とした『新冠町防災避難訓練』が行われました。この日は、午前8時に大地震が起こり、後に、大津波が発生することを想定し行われ、避難訓練に参加した住民は避難所までの経路を確認し、自治会役員は非常時の初動体制について確認をしていました。

新冠の自然と食を堪能 にいかっぷウエディング



10月5日、町観光協会が今年度スタートさせた乗馬や温泉など、新冠の魅力を詰め込んだ結婚式『にいかっぷウエディング』で、埼玉県在住の男女が式を挙げました。この事業は、町観光協会がコロナ禍でも密集を避けられるよう工夫してスタートさせ、今年6月に引き続き、2組目の利用者となりました。式は、にいかっぷホロシリ乗馬クラブ前で始まり、2人は草花などの飾り付けたサラブレッドにまたがり式場となるレ・コードの湯ホテルヒルズへ遊歩道を引き馬で移動し、道中、眺めの良いパークゴルフ場の一角で馬と触れ合い記念撮影などを満喫しました。

日高信金100周年記念事業 乗馬クラブに桜の若木を植樹



10月19日、日高信金庫（大沼孝司理事長）は、にいかっぷホロシリ乗馬クラブの敷地にエゾヤマザクラの若木5本の寄贈を行いました。これは、同金庫創立100周年記念事業の一環として行われ、大沼理事長は「花が咲いて町民の皆さんに見に来ていただければ」と話されました。

津波災害の理解を深めるため 新冠町防災教室の開催



10月19日、レ・コード館で道が主催する『津波防災地域づくり講演会』に併せ『新冠町防災教室』が開かれました。この日は、町防災担当者から防災メールやハザードマップなどについて説明し、その後、講演会をオンラインで視聴しました。講演会では、日本災害情報学会の片田会長が「巨大津波想定にどう向き合うか」について分かりやすく説明しました。

ま ち の 話 題

あ れ こ れ

いづも園で交通安全教室 車の怖さや交通ルール学ぶ

10月12日、認定こども園ド・レ・ミの『交通安全教室』が同園駐車場で行われました。この教室は、静内警察署と日高自動車道の工事を施工している宮坂建設工業㈱の協力により行われ、駐車場に信号機を設置したほか、建設重機などが配置されました。この日は、年少から年長までの全園児が信号機の見方と横断歩道の渡り方を学び、その後、パトカーの乗車体験、警察官制服の試着と建設重機の見学などを行いました。



サイバー犯罪から子供たちを守るため 警察署とサイバーセキュリティ協定



10月7日、静内警察署と新冠町、新ひだか町の教育委員会は静内警察署で「サイバー空間の脅威から子供を守る活動に関する協定」を締結しました。これは、子供たちにインターネットの安全な利用方法について周知を進めるとともに、ネット被害などにあった際に迅速な対応を図ることを目的に関係機関が協定を締結しました。

9月21日は 世界アルツハイマーデー



新型コロナウイルスの影響により、延期となっていた『世界アルツハイマーデー』のパネル展が10月14日～29日まで、役場ロビーで開催されました。パネル展では、認知症の理解を深めてもらおうと早期発見の目安などの解説をパネル展示したほか、タブレット端末で認知機能のチェックテストができるブースが設けられました。

芸術の秋 新冠町民文化祭 総合作品展



10月22日～24日までの3日間、新冠町文化協会が主催する『第51回新冠町民文化祭総合作品展』が開かれました。総合作品展では、書道や絵画、写真、陶芸などのほか、小学校や認定こども園、福祉施設の作品などが展示され、期間中、約600名の方が会場を訪れ、文化の秋を楽しみました。

少年団員と農高生による馬術大会 人馬一体 華麗な技を披露



10月31日、『第37回新冠乗馬スポーツ少年団競技会兼第34回静内農業高校馬術部交流馬術大会』が、にいかっぷホロシリ乗馬クラブで行われました。この大会は、少年団員と高校生が交流し、お互いのレベルアップを図るために行われているもので、今年は少年団員22名・高校生19名が出場し、障害飛越競技など、練習の成果を披露しました。